

## 日本悲観論

令和6年4月29日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

組織は唯一現実に隷属し、既存現実に贖うことはできない。亡国の兆しへ、断固として施策を有することはできない。

国民との断絶は政治不信を抱く。双方が双方を批判する誤りを求めるのみである。

世界は次世代へ移行し、それらへの落伍は現実である。それらに対して理解とともに現実を求めるものはいない。

一切の無力さは、現実に贖うことができないことであり、根本的な現実の改革を求めるとき、理解の未熟さにおいてそれら現実を求めることは不可能である。

財政は完全に破綻しており、経済政策の無力さや、財政の健全化を求めることさえ存在しない。

極東アジアにおける紛争への無力さは、軍の組織の未熟さや、外交における対米追従という唯一の現実を盲信する以外できないのである。

これら全ての誤りへ根本的な構造改革が唯一の選択であると考え。これらは新しい国家像と優れた知性と理解における新たな国家への転換を要求するはずである。

我々の一切の努力は、新たな国家像の提案であり、独立と自立における新しい未来の模索なのである。

これらは政治のコンセンサスとリーダーシップにおける新しい理想や全ての問題の解決における未来という現実の創造を提案するものである。

これらは明確に危機意識の共有とともに、現実の転換と世界における新しい現実への参加を要求するものである。

これらは唯一未来という選択であるはずである。